

九州共立大学

スポーツ学部

2023 年度

カリキュラムマップ

スポーツ学科 専門教育科目

(2023 年度入学生)

<p>学是 (学則第1条の2)</p>				<p>本学は、建学の精神「自律執行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>				
<p>スポーツ学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の4)</p>				<p>スポーツ学部及びスポーツ学科は、学是「自律執行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする。併せて、自己理解の基に、他者との協調性、寛容性、社会性、コミュニケーション能力を育み、リーダーシップの取れる人材養成を目的とする。</p>				
<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)</p>				<p>スポーツ学科は、総合的な教養、スポーツ分野での多様な専門知識を身につけ、幅広い教養かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目指す。この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。</p> <p>【主体性・協働性・倫理性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。</p>				
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)</p>				<p>スポーツ学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専攻教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p>【教育内容】 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、アスリートマネジメントコース、スポーツ教育コース、スポーツトレーナーコース、スポーツ政策コースの4コースで構成し、スポーツに関する専門的知識、技能を身につけるよう、系統的に科目を配置する。 2. 専門教育科目は、「共通科目」「専攻コース科目」「専門演習科目」「スポーツ実技科目」で区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、知識と技能を修得し、さらに両者を実践的に学修できるよう科目を配置する。スポーツに関わる理論知・実践知を身につけ、学年を重ねるにつれてそれらを応用する能力を高められるよう、必修科目と選択科目を段階的に配置する。 3. さらに専門演習科目は、3年次より少人数クラスで展開され、4年次に卒業研究に取り組む。これらの科目を通して、国内外において活かせる「協調性」、「社会性」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「礼節とマナー」、「指導者能力」、「課題探求能力」、「課題解決能力」を育む。</p> <p>【教育方法】 1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。 2. 演習・実験・実習においてはグループ学修を取り入れ、協調性を身につけるとともに、自己および他者の課題を発見し、解決する力を育成する。 3. 卒業研究は、身につけた知識・技能・論理的思考力・分析力を活用し、主体的に研究を行い、成果が実を結ぶように個別指導を実施する。</p> <p>【教育評価】 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。 2. 4年間の学修成果は、卒業研究(必修)によって行い、総合的に評価する。</p>				
<p>スポーツ学部のカリキュラム</p>				<p>卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係【◎特に関係する ○関係する】</p>				
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性・倫理性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。 ※「倫理性」は2023年度以降の入学生より適用
共通科目	解剖生理学	1年生	前	解剖学と生理学は、人体の構造と機能を学ぶ学問であり、両者は統合させて理解する必要がある。効率の良いスポーツ活動を行うために、またスポーツ医学関連分野を学ぶために必要な知識を得ることを目標とし、基本的事項を重視しながら幅広い分野にわたり授業を展開する。ただしスポーツ学部であるので、神経系と筋骨格系に特に重きを置く。	単純に器官や器官系の名称だけでなく、人間を全体像としてみながら、各器官の働きについて相互関係を理解して説明できる。	◎		
共通科目	衛生学及び公衆衛生学	1年生	前	衛生学・公衆衛生とは、社会で生活しているすべての人々を対象とし、集団の健康を維持増進させようとする学問である。本講義では、人間の健康に影響を与える、自然・社会・環境等の包括的理解を重視していく。また、疫学的研究手法や集団の疾病対策についての知識を深め、地域社会の中の多様な健康課題についてそれぞれのどのような対策が立てられているのか、その科学的活動および実践的活動について検討できるようにする。	・健康と疾病の指標と統計データ、保健医療行政、感染症対策、環境保健対策など、人口集団に対する保健医療対策を理解することができる。・保健医療施設や地域、職域、学校など身近な人口集団において公衆衛生活動を実施する基礎力を養うとともに、保健・スポーツ専門職として活動するための技術と態度を習得することができる。	◎	○	○

共通科目	スポーツ運動学(運動方法学を含む。)	1年生	前	【目的】 運動の学習に必要な不可欠な「身体知」という多様な能力について、運動学習や運動指導に役立つ実践的理論として理解できるようにする。 【概要】 実践指導の経験を活かし、意識と感覚に焦点をあてた運動学の観点から運動学習、運動指導について考えてゆく。また運動を学習する能力、教える能力としての「身体知」の多様なカテゴリーについて学習してゆく。	・スポーツを観察する方法を理解し、指導時に活用できるようになる。・運動の質に関する理解が深まり、その良否に関しても適切な判断ができるようになる。・運動が上手になる過程について理解し、適切な指導ができるようになる。	◎	○	○
共通科目	スポーツ指導論	1年生	前	本講義では、スポーツ指導およびコーチングのための基礎を学習する。指導やコーチングは、スポーツを理念の明確にすることから始まる。スポーツの概念・現状(様相)を十分理解し、その上で、指導法・コーチング法の基礎、さらには教育としてのスポーツなどを考究する。高等学校で保健体育授業および部活動(クラブ活動)の指導経験のある教員が、現場ですぐに用いることができる指導法や内容を教授します。	①スポーツに対する自論を明確に説明できる。 ②スポーツ指導とコーチングの概念や差異が把握できる。 ③スポーツ学習についての評価が説明できる。	◎	○	○
共通科目	スポーツ生理学	1年生	後	スポーツ運動は筋収縮の総体として発現し、身体諸器官の滑らかな調節と連携により遂行されている。本講義では、スポーツ運動の調節のための生理的变化やスポーツトレーニングの継続による中・長期的変化について学び、スポーツ運動時の生体の適応システムを総合的に理解する。	本講義で学習するスポーツ運動時の身体の生理的なはたらきや変化、トレーニング効果について記述して説明することが出来る。	◎		
共通科目	スポーツバイオメカニクス	1年生	後	スポーツバイオメカニクスは力学、生理学、解剖学などの基礎知識を活用し、身体運動の仕組みを明らかにしようとする学問である。本講義では基礎となる諸学科の知識の上に身体運動の法則と歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを学び、利用することができるようにする。	スポーツバイオメカニクスの学問分野における専門用語を理解できる。 身体運動に関わる基礎的な物理法則が理解できる。 歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを説明できる。	◎		
共通科目	スポーツ社会学	1年生	後	スポーツ社会学では、教育、地域、経済、政治など様々な領域の中における人間関係(社会)をスポーツを通して学習する。スポーツの歴史や現場で起きているさまざまな現象について、社会学的立場から批判的、実証的に説明を行いながら課題と展望を明らかにする。	・スポーツの社会的役割、スポーツの社会的影響、社会から受ける影響などについて批判的に、論理的に考えることができる。・スポーツと社会の望ましいあり方を考えることができる。	◎	○	○
共通科目	スポーツ心理学	1年生	後	スポーツにおける心理的な問題について指導者の立場、学習者の立場両面から扱っていく。主な内容は、スポーツと動機づけ(やる気)、スポーツ技能の学習と指導、選手及び指導者のメンタルマネジメント、スポーツと発達心理、スポーツと心理臨床についてである。それらの内容を理解することによって、スポーツ実践と指導に役立つ心理学的知見を幅広く学習する。	1. スポーツにおける動機づけ理論について具体例をあげて説明ができる。2. スポーツ技能の学習について「運動学習理論」と結びつけて説明ができる。 3. メンタルマネジメントにおける心理的技法の内容を具体例をあげて説明ができる。 4. ジュニア期のスポーツ指導についてその意義と問題点について説明ができる。 5. スポーツカウンセリングとメンタルトレーニングの違いについて説明ができる。	◎	○	
共通科目	トレーニング実習	1年生	前・後	・各種トレーニングマシンやフリーウェイト(特に、ハイクリーン、デッドリフト、スクワット)について、正しい基本動作や注意点を実践を交えながら説明する。 ・各種エクササイズの主働筋を理解した上で、自分自身のトレーニング目標(筋量向上、筋力向上、筋持久力向上)を設定し、適切なトレーニングプログラムを作成できる人材育成を目指す。	・自身の目的に応じたトレーニングプログラムを作成できる。・各種トレーニングマシンを用いたエクササイズを正しい方法で行える。・各種フリーウェイトを正しいエクササイズ方法で行える。(特に、ハイクリーン、デッドリフト、スクワット)・各種エクササイズの注意点と主働筋を理解できる。	◎	○	○
共通科目	体力測定評価法実習	1年生	前・後	効率的な体力の向上を目指すには生体からの正確な情報収集が不可欠である。本実習ではスポーツ活動を実施する上で特に必要と思われる体力及び健康生活に必要な体力の測定技法を修得することを目的とする。また得られたデータを統計的に処理し、体力を客観的に評価する方法を学ぶ。	①体力とはなにかを説明できる。 ②体力測定(機能・形態)を測定することの意義が説明できる。 ③各年代に応じた各種体力(機能測定・形態計測)を測定できる。 ④測定したデータを客観的な指標を用いて評価できる。	◎	○	○
共通科目	テーピング実習	3年生	後	スポーツ現場で多用されているテーピングの有効性について解説し、実際にテーピングの実習を行うことで、テーピング「する側」「される側」の両者について体感を得られるような授業を展開する。	・テーピングを実施する上で必要な知識について説明できる。・テーピングを使用する目的に合わせて、効果的なテーピング方法を選択し、正確な技術をもって巻くことができる。	◎	○	○
共通科目	健康フィットネス論	1年生	後	生活習慣病のような文明病は、個々の意識の向上と社会的システムの構築によって十分克服できるものとする。そこで本講義では、健康とは何か、フィットネスに対する関心の高まりの社会的背景、健康とフィットネスとの関係、運動のプログラムなどについて学習するとともに、健康運動指導士及び健康運動実践指導者資格の受験に必要な基本的知識を学習する。	・健康運動指導士と健康運動実践指導者の役割を説明できる。・健康づくりのための各種方法を説明できる。・運動が身体に及ぼす影響を説明できる。	◎		
専攻コース科目	アスリートマネジメント概論	1年生	後	本講義では、パフォーマンス向上を目指したアスリートをマネジメントするために必要なスポーツ科学の基礎を学ぶ。スポーツとは何か、選手・指導者・観客の立場に立ち、それぞれの具体的な内容を幅広くとりあげる。さらに、スポーツに関連する基礎的な知識を踏まえ、将来スポーツに携わる人材として必要な知見を身につける。	1.アスリートをマネジメントするために必要な原理・原則が理解できる。 2.スポーツ指導者、コーチとして必要な知識が身についている。 3.スポーツの社会的役割および教育的役割が理解できる。	◎	○	○

専攻 コース 科目	スポーツ教育概論	1年生	後	2012年、指導者の体罰による運動部活動生徒の自死は大きな社会問題となったが、その後も運動部活動における体罰・暴力問題は後を絶たない。他にも、運動する子と運動しない子の二極化現象、子どもの体力低下問題など、我が国の体育・スポーツ界は様々な問題を抱えている。本講義では、スポーツや学校体育の本質を考え原理・原則を明確にするために、スポーツ・体育の歴史の変遷、勝利至上主義、商業主義など様々な視点から現代の体育・スポーツについて考察する。前半は講義形式でレクチャーし、後半はレポート作成、ディスカッション、調査学習、プレゼンテーション等を通して問題について考えを深め、自己の考えを表現する。	保健体育教師やスポーツ指導者としての基礎的知識を修得し、現場で指導する際の考え方を身につけるために以下1~4の到達目標を設定する。1.学校体育・スポーツに関する提示資料(文献、統計、映像等)を読み取り、その内容から自分の考えを表現できる。2.学校体育・スポーツに関する基礎的知識を修得できる。3.学校体育・スポーツを取り巻く諸問題を捉え、体育・スポーツのあるべき姿について考察・説明できる。4.上記1~3を踏まえ、保健体育教師・スポーツ指導者として自身の考えを持ち、行動できるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	アスレティックトレーナー概論	1年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。本講義ではアスレティックトレーナーの歴史や役割について概略を説明する。また、日本スポーツ協会の公認アスレティックトレーナー資格に焦点を当て、検定試験の内容や受験資格に関して説明をする。	アスレティックトレーナーの歴史や役割の概略を学ぶことで、アスレティックトレーナー関連科目の学びの意義と目的を明確にすることができるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツ政策概論	1年生	後	国や地方公共団体のスポーツ政策に関わる様々な社会現象や国内外の動向について解説を行う。加えて、文部科学省及び地方公共団体のスポーツ推進事業の実態から見える課題について、国内外の事例を元にその解決策について理解を深める。	・国及び地方公共団体のスポーツ政策の現状と課題についての説明ができる ・スポーツに関連する他の施策・事業について理解することができる	◎	○	○
スポーツ 実践 科目	体操(体づくり運動を含む。)	1年生	前・後	体操(体づくり運動)は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成されている。教員としての指導実践の知見をベースにして授業を展開し、自他の心と体に向き合って体を動かす楽しさを味わい、心と体をほぐす運動や体力を高めるための運動の行い方を理解できるようにする。【担当:川内田、香藤】	1.目的に合った基本的な運動が指導できる。2.ラジオ体操、ストレッチ体操の運動効果について説明ができる。3.2人組、グループでお互いに工夫・協力して運動を楽しむことができる。	◎		○
スポーツ 実践 科目	陸上競技A	1年生	前・後	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、遠くに跳ぶ、遠くに投げるための原理・原則が存在する。本授業においては、短距離走、ハードル走、走り幅跳び、の各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。【担当:山口、柴】	① 実施する各種目の技能(記録)を一定水準まで身に付けることができる。 ② 実施する各種目の技能を高める方法を理解し、記録に挑戦することができる。③ 実施する各種目の初心者指導法を理解し、説明することができる。	◎	○	○
スポーツ 実践 科目	バスケットボール	1年生	前・後	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。バスケットボールにおける基礎技術である(シュート、パス、ドリブル)を学習する。また、基礎技術の習得とともに集団技術(防衛から攻撃、攻撃から防衛)を学習する。そのためには、バスケットボールのフォーメーション(スクリーンプレー、ポストプレー、ナンバープレー)を学習し、バスケットボールにおける特性を理解しながら各ポジション(ガード、フォワード、センター)に分けてゲームを通じて理解を深めて学習する。	1.バスケットボールの技術特性およびボールを扱う楽しさや相手との駆け引きの楽しさを学習しながら基礎技術を習得できること。2.学校教育および社会教育の現場においてバスケットボールの指導するにあたり必要な基礎的な知識、技術を習得できること。3.個々の技術を上げるための練習方法、チーム戦術を習得し指導方法を学ぶ。	◎	○	○
スポーツ 実践 科目	サッカー	1年生	前・後	本授業では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(多種のパスやシュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。さらには、サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めていく中で、リーダーシップやスポーツマンシップの向上を目指す。	1)サッカーの基礎的技術を習得し、試合中に使えるようになる 2)サッカーの守り方や攻め方を含めた戦術を理解する	◎	○	○
スポーツ 実践 科目	サッカー	1年生	後	本授業では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(多種のパスやシュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。さらには、サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めていく中で、リーダーシップやスポーツマンシップの向上を目指す。	1)相手との駆け引きを通じ、様々な動作「36の動き」を引き出せるよう工夫できる。2)「止める」、「蹴る」、「運ぶ」の基本的技術を実践できるようになる。3)リフティング10回できるようにする。4)個人戦術、グループ戦術の基本を理解することができる。5)チームで協力し、ゲームを遂行できる。6)基本的なルールを理解し、説明できるようになる。	◎	○	○
スポーツ 実践 科目	キャンプ	全学年	前	恵まれた自然環境と施設の中で、キャンプ指導者としての自然におけるマナーや人との関わり、野外活動の基礎から応用を体得し、さらに指導・立案・計画方法等や、さまざまな指導場面での実践方法を学ぶ。【担当者:花田、後藤平】	①キャンプの意義や目的および技能を理解し、説明・実践することができる。 ②自然と人との関係、指導者の役割および安全管理について理解し、説明・実践できる。③対象に応じたキャンププログラムの企画・運営・評価のあり方を理解し、説明・実践できる。④キャンプの基礎技術・応用技術を理解し、説明・実践できる。		◎	

スポーツ実技科目	マリンスポーツ（水上）	全学年	前	現代の日本社会において、子どもの発育発達段階における体験活動の重要性や多様な生涯スポーツ種目へのニーズが高まっている。それらの社会的ニーズに対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しく安全に楽しめるように、基礎的知識と技術と身につけることを目標として「到達目標」に記載内容を実施する。【担当者：船津、山口】	○ 海岸より出だし、目標物を回航して戻ってくる技術を習得する。 ○ 海洋スポーツを安全に実施、指導する際のスキルを身につける。 ○ 野外スポーツに必要な天候による実施（活動）の是非に関する判断能力を身につける。	◎	○	○
スポーツ実技科目	マリンスポーツ（水中）	全学年	後	現代の日本社会において、子どもの発育発達段階における体験活動の重要性や多様な生涯スポーツ種目へのニーズが高まっています。それらの社会的ニーズに対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しく安全に楽しめるように、基礎的知識と技術と身につけることを目標として「到達目標」に記載の内容を実施します。	○ 海洋スポーツを安全に実施、指導する際のスキルを身につける。 ○ 野外スポーツに必要な天候及び海況による実施（活動）の是非に関する判断能力を身につける。 ○ NAUIオープンウォーターダイバー資格取得レベルの知識と技術を修得する。	◎	○	○
スポーツ実技科目	スノースポーツ	全学年	後	スノースポーツの代表であるスノーボードを取り上げ、基礎技術を学び中級斜面を爽快かつ安全に滑走する技能を修得する。さらに、班別活動や集団生活を通して社会的スキルを身につけることも目指す。【担当：得居・伊藤友】	①スノーボードの基礎技能を修得し、中級斜面を安全に滑走することが出来る。 ②スノーボードのターンの仕組みと基礎技術について説明出来る。 ③安全な滑走のためのゲレンデにおけるルール・マナーについて説明出来る。	◎	○	○